

TGRF キッズ記者体験レポート

大澤 美央(小学5年生)

2019年12月15日 富士スピードウェイで開催されたトヨタガズレーシングフェスティバル

2019年で、今回3名のレーシングドライバーへ取材をさせて頂きました。

まずは、レーシングドライバー 石浦宏明(いしうらひろあき)選手の取材です。

全日本選手権スーパーフォーミュラ(P.MU/CERUMO・INGING SF19 #38)(シリーズチャンピオン・2勝)。全日本スーパーフォーミュラ選手権(P.MU/CERUMO・INGING SF14 #2)(シリーズチャンピオン・1勝)。2回チャンピオンになっている。

乗っている車、GT のダウンフォースは後ろのウイングと、下にもウイングがついていて車の車高で調整できる、スーパーフォーミュラは前後にウイングがついているので調整できる。

別のレースで出ている86の方はマニュアル。GT と S フォーミュラーはパドルシフトでクラッチが付いていない。普通レーサーを目指す人は5歳からカートで、15歳まででカートを卒業して、16歳でライセンスを取りに行く人が多いが、石浦選手はカートで20歳くらいまでカートを行っていた。トヨタのドライビングスクールは石浦選手が教えてくれる。

実際にレースに出て車をセッティングするときに色々勉強が必要なので、子供のころの勉強は重要と言っている。ドライビングテストや体を鍛えたりで、1年中大変。市販の車の開発も行っているし、ドイツのレースや他の海外のレースで中々家に帰れず、1年の半分以上はホテルで生活しており、3人子供がいるがあまり家族と交流できる時間がない。

来年はLC から車が変わる、スープラはまだMAX パワー出していないが、LC よりすごく早い。

続いて、レーシングドライバー国本 雄資(くにもと ゆうじ)選手と坪井 翔(つばい しょう)選手の取材です。場所はピットの中で実際に車の前で行いました。

スピードは怖くないですか？と質問すると、車も安全に出来ていて、サーキットもルールが決まっているから怖くないよと言っていた。この車の気に入っているところは？と聞くと車は非常にカッコいいけどその中でもタイヤが一番カッコいいと言っていた。レースの中で一番大変な事は？と聞くと何でも大変と言っていた。

この LC500 という車は2000ccのエンジン。パワーステアリングが付いている。エアコンは冷やす方の冷房だけ。リアウイングが付いていて、空気力で車を下げる力をだしている。ガソリンはピットに入っている。運転席は狭い、ギアは1から6速までである。クラッチペダルはないが、スイッチでギアを切り替えることが出来る。タイヤは普通の時スリックタイヤという溝のないタイヤ、雨の日はウェットタイヤという溝付きのタイヤに変える。運転席は狭くて足から入れて頭を入れる。シートは前後に動かない。

レーシングカーのマフラーは横から出ている、一般の車と違って、音を小さくする必要がないのと後ろにマフラーをのばすと重くなるから。

それぞれ最後に選手のみなさんと集合写真をとれてすごく良い体験でした。

車はまだそんなに知らないのこれからいっぱい勉強しようと思いました。
また次回も話をいっぱい聞けたらよいとおもいました。